

I 目指す学校像

生徒一人一人のニーズに応じた質の高い教育を推進し、自立と社会参加の基礎を培う学校

～豊かな心を持ち、地域の一員として自分らしく生きる力を育む～

<学校教育目標>

「たくましい心と体を培い、責任をもってやりぬく力をもつ生徒」

「自ら進んで学び考え、選択・決定し、主体的に行動する生徒」

「自然や環境に関心を持ち、社会の一員として思いやりと規範意識を持ち、豊かに生きる生徒」

II 中期的目標と方策及び進捗状況

中期目標	方策	進捗状況
1 生徒一人一人に応じた指導の充実と自立と社会参加を見据えた教育の推進	(1) 生徒の人権に配慮した教育の推進 (いじめ・体罰、不適切な指導の根絶) (2) 個別指導計画に基づいた、生徒一人一人の学力の向上・定着 (3) 生徒の学習の進展に寄与するICT機器及び視聴覚教材を活用した授業の実践 (4) 学習環境の充実(安全・清潔・分かりやすさ・動きやすさ) (5) 新学習指導要領の移行を踏まえた教育課程の改善 (6) 生徒の希望を実現する進路指導の充実・生徒の実態に応じたキャリア教育・職業教育の促進 (7) オリンピック・パラリンピック教育及び日本の伝統・文化の教育の推進	次年度は、(3)(5)(6)についての強化を図る。(1)(2)については継続し推進していく。(4)については特に作業学習についての改善が中心となる。(7)は華道茶道は中重度の生徒の取組を推進する。またオリパラ教育は、地域及び地区の活性をより意識した取組みとする。
2 安心・安全な環境整備及び健康・健全な教育活動の充実	(1) 生徒に応じた自立や自律を促す指導の充実 (S/Sルール、挨拶・時間・身だしなみの励行等) (2) 健全育成上問題となる行動への組織的対応の充実と自己有用感の醸成(部活動・表彰等) (3) 学校危機管理マニュアルの周知・徹底及び危機管理体制の充実 (4) 教職員の防犯意識や安全配慮義務への意識向上と事故及び自然災害等への対応訓練の強化 (5) 健康教育及び食育の推進(アレルギー、食形態等含) (6) 防災教育の充実 (防災ノートの積極的活用・地域と協働した宿泊防災訓練)	(1)(2)は改善が図られ学校評価でも高評価であった。 (4)(5)(6)引き続き推進していく。特にJアラート訓練は計画的かつ組織的に実施する。また、次年度よりSOS出し方教育の推進を重点目標に掲げていく。
3 生徒や保護者の思いや生活をサポートする組織体制の確立	(1) 余暇活動の充実(放課後デイサービス・移動支援の事業者との連携) (2) 様々な問題に寄り添える相談機能の充実と教職員のカウンセリングマインドの向上 (3) 学校生活支援シート等を活用し地域・関係諸機関との連携の充実 (4) 個々の教員の進路指導に関する専門性の獲得及びアフターケア(定着支援)の充実 (5) 登校支援の推進	(1)(2)については放課後デイサービスや移動支援の事業所及び児童相談所等の連携が強化された。(3)(4)については継続。 (5)については大きな成果があり実践発表につなげていく。
4 地域に開かれ、地域に貢献する教育活動の推進	(1) 本校の教育活動の発信・共有の推進(HP・各種便り等) (2) 地域との障害者スポーツの普及啓発及びスポーツ交流の推進 (3) 地域への社会貢献の充実及び地域と協働した教育活動の推進 (4) 発達障害等の特別な支援が必要な児童・生徒についての相談機能の充実(高等学校等) (5) 災害時の帰宅支援ステーション設置及び区と連携した福祉避難所設営に向けての準備 (6) 鹿本学園との連携。鹿本学園や特別支援学級生徒の見学や体験の計画的・積極的受入れ	(1)(2)(3)については順調である。 (4)(5)については今後も継続していく。(6)については臨海地区の特別支援学校も考慮しながら実施していく。
5 適正かつ効率的な学校経営と組織体制の強化	(1) サービスの厳正と高いモラル意識の向上 (2) 外部専門員の活用や組織的なOJTの推進による質の高い授業力の向上 (3) 業務分担及びライン及び責任の明確化、仕事の効率化、ライフワークバランスの推進 (4) ライフ&キャリアプラン(職層・経験年数等)に基づく人材育成 (5) 経営企画室との教職員の連携強化及び経営企画室の学校経営参画の推進	(1)(2)(5)については継続。(3)(4)については働き方改革の視点を取り入れ重点目標とする。

III 今年度の取組目標（◎最重要○重点）と方策及び今年度の取組の成果と課題

自己評価：○達成△概ね達成×未達成

項目	重点	取組目標・方策	取組みの成果と課題	自己評価
1 学習指導	◎ 1	生徒が分かりやすい・シンプルな教室環境の整備	・学校運営連絡協議会より良好の評価を得た。	○
	◎ 2	生徒が能動的に学習できる授業の充実（指導内容・手だて） ・指導略案の改善（学校公開・授業参観等配布） ・手順表や教材の工夫の推進（特科作業・教科・日常生活）	・主体的な学び深い学び等の視点を入れた略案により授業内容も向上している。（学校評価の結果から） ・課題：作業学習の教材の工夫・手順表の強化	△
	◎ 3	ICT 機器を視覚教材を活用した授業展開の工夫	・課題：次年度も継続していく	×
	◎ 4	単元「日本のたしなみ」（華道・茶道）の推進（試行）	・生徒及び保護者にも好評。今後も推進する。	○
	○ 5	循環型・環境型（リサイクル）の作業学習の推進	・コンタクト等の新規開拓に努めた。今後も推進	○
	◎ 6	オリパラ教育の活性化と教員の指導力の向上	・学校全体で取組み2月においては全ての学習においてオリパラ教育の視点を取り入れた公開授業が実施できた。今後も継続していく。	○
	◎ 7	検定（漢字検定・清掃・喫茶等）資格取得のための参加促進	・全ての検定で昨年度の2倍の参加人数であった。	○
2 生活指導	◎ 8	個々の自立に向けた一人（自立）通学計画書の作成	・時間がかかったが完了。次年度も継続	○
	○ 9	自然災害や大事故等に危機回避できる力の醸成（ヘルプカードの携帯促進・防災ノートの活用）	・課題：軽度の生徒のヘルプカードの携帯である。次年度はPTAと連携し促進していく。	△
	◎ 10	危機管理マニュアルの再構築（福祉避難所運営マニュアル追加）	・防災訓練は地域から高評価であり、今後も推進するが、マニュアルは江戸川区と連携しながら再度作成していく。	△
	◎ 11	地域と連携した宿泊防災訓練の実施（試行）	・日頃の共有理解、支援会議や児童相談所等の連携等非常に充実が図られた。次年度も継続する。	○
	◎ 12	課題や支援が必要なケースの対応の共通理解と毎日の生徒の様子や生徒関係の状況の共有化を図る	・生徒が一定の出席を得られた。今後も継続	○
	◎ 13	外部専門員等と協働した登校支援事業の試行（ふらっと授業）	・学校評価で非常に多くの評価を得た。	○
	◎ 14	表彰規定に基づいた生徒表彰の励行	・包括支援部が核となり一層の充実が図られた。	○
	◎ 15	外部専門員を活用した支援会議の充実（学年ごと）	・日々の危機管理意識の向上の一助となった。	○
	○ 16	週案を活用した危機管理意識（安全配慮義務）の向上	・課題：救命講習の取得は85%以上。次年度、応急手当普及員の取得が出来れば優良事業所となる。	○
3 進路指導	○ 17	応急手当普及員・上級救命講習・初級救命講習の資格取得の推進（優良事業所としての認定取得）	・課題：企業就業を予定していた生徒がやむを得ない理由で辞退等あった。	×
	◎ 18	個々の生徒のニーズに応じた進路実現の推進	・PTAと連携し進路懇談会を実施したり、進路の便り等積極的に発信したりした。・課題：次年度の報酬決定に伴う福祉サービスの在り方等の理解促進	○
	○ 19	生徒や保護者への理解促進と相談機能の充実・理解啓発（便りの発行・PTAと連携した学習会） ・進路相談（面談及び放課後の活用）	・1件あったが行政と連携し迅速な対応ができた。	○
	○ 20	離職後、行政と連携した円滑なリスタートの対応	・実施したことで新規開拓につながった。	○
	○ 21	ハローワークと連携した企業等の学校見学会の実施	・85名の参加が得られた	○
4 特別活動	◎ 22	行政と協働した福祉説明会の実施（区内在住児童・生徒対象）	・5月から実施。集会も好評であった。	○
	○ 23	生徒会主催のオリパラ集会及びオリパラカウントダウンの実施	・退部：1件。部活動としては充実が図られている。	△
	◎ 24	高齢者等との社会貢献の推進（文化部、営業・事務班等）	・年4回様々な内容で実施。今後も推進	○
5 健康づくり	◎ 25	災害・緊急時等の個々の健康管理の強化（薬の管理・発作等の対応の確認・主治医との連携）	・主治医訪問を担当と養護教諭で同行することや薬の管理方法を改善したことなどで健康管理の充実が図られた。・課題：宿泊行事の際の薬手帳（コピー）の携帯及び視力の扱い方の再検討。	○
	◎ 26	食物アレルギーの対応に関する研修の実施		○
	◎ 27	医療的ケアPTを立ち上げ実施に向けた基盤整備を進める		○
6 広報・特別支援教育理解啓発	◎ 28	交流活動の充実（障害者スポーツ、サッカー、行事等）	・ふれあいサッカー、蓮植えの交流、ソフトボール、地区運動会、ポッチャ等で地域、地区、都立高校も含めた近隣の小中学校等、様々な交流が実施できた。	○
	◎ 29	江戸川地区高校生ポッチャ大会の実施（都立校5校予定）	・課題：次年度はより計画的に実施する。（31）	△
	○ 30	オリンピアン・パラリンピアンとの交流の推進（試行）	・約400名の参加があった。	○
	◎ 31	研修会及び公開研究会の実施（関係諸機関・高校対象）	・今後も今年度同様実施する。	○
	○ 32	円滑な入学相談の充実（鹿本学園、区内中学校）	・昨年度より倍以上の更新ができた。	△
	○ 33	本校教育活動の理解啓発のためにHPを適宜更新	・課題：配布まで至らなかった。次年度継続	×
	○ 34	白鷺カタログ（作業製品）の作成及び配布（試行）	・長期休業中の見学は今後も実施していく。	○
	○ 35	放課後デイ及び移動支援の担当者との連携強化		○
7 学校運営・組織体制等	◎ 36	事故ゼロ服務事故ゼロの徹底と教育公務員として資質向上	・課題：マイナンバーの情報管理の徹底を推進していく。	○
	◎ 37	情報機器の管理、点検及びクリーンデスクの徹底		○
	○ 38	作業製品（和のおもてなし等）の開発と販売先の開拓	・3つ以上製品化し、近隣の雑貨店と連携できた。	○
	◎ 39	新学習指導要領への移行を見据えた教育課程の改善・3年間連続したシラバスの作成 ・H30に向けた各学年の年間指導計画の作成	・課題：年度末までに作成できているが、オリパラ教育やSOS出し方教育の記載には再度確認が必要	△
	◎ 40	災害備蓄倉庫の整理（見える化・即時化）	・夏季休業中に終了。	○
	○ 41	丁寧な応対と相手の立場やニーズを考えた業務の遂行の徹底	・円滑に行えた。	○
	○ 42	適正な予算編成の執行と予算執行の管理	・課題：円滑な学事システムへの移行。	○
	◎ 43	教職員のライフワークバランスの推進と心身の健康管理の徹底	課題：超過勤務の教員へのアプローチや業務改善に向けた組織的な解決は今後も必要である。	△
◎ 44	個々の業務量の負担軽減と校務の効率化の推進		×	